

## レンコン収穫へ

### 最後の手入れ

鳴門 ザリガニ取りも

環境、生き物と触れ合う自然再生型農業プロジェクト「えんたのれんこん2009」に参加した人たちが、鳴門市大津町の水田に春植えたレンコンが育った。来月の収穫祭に向けて11日、みんな最後の手入れをした後、これまでの労をねぎらおうとザリガニ取りやタナゴ釣りを楽しんだ。

この日は、収穫までレンコンの色合いを保つために茎（軸）を倒す作業に精を出した。軸を引き倒した穴にはザリガニが潜む。泡の出ている穴に手を突っ込んで、引き上げる。敵も素早く泥に潜り込んだ。収穫はバケツにいっぱい。中国からの留学生が油いためにした。「スパイスがよく利いて結構うまい」。タナゴ釣りは完敗だった。

これまでも、地元農家の人たちと藻切りや泥上げをして畑の環境を維持してきた。効果は上々で、フナ、モツゴ、タナゴなどの生育を確認

している。

このプロジェクトは、徳島大環境防災研究センターや地元農家などでつくる「えんたのれんこん推進会議」の主催。種付けから収穫まで年に数回、催しており、毎回50人

前後が参加している。今年度は国の「教育ファーム推進事業」の助成を受けた。

（長谷川大彦）



中華鍋にザリガニを入れる子どもら＝鳴門市大津町段関